

(様式1)

# 個別施策評価調書

主管部	都市計画部	
関係部	建設部	-
	-	-

基本施策	Ⅱ-6 交通環境を整備する
個別施策	① 交通移動体系の整備
個別施策の方向	つくばエクスプレス各駅等を交通結節点とした公共交通体系の構築を図り、「つくバス」や「つくタク」の運行充実に努める。また、環境負荷の低減や健康にも寄与する自転車のまちづくりを推進するとともに、市外への交通アクセスの利便性向上に努める。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)										
H27年度	決算	事業費	1,004,262	人件費	52,624	事業コスト	1,056,886			
	事業費内訳	国庫支出金	181,035	県支出金	1,196	地方債	140,900	その他特財	0	一般財源
H28年度	決算	事業費	1,433,846	人件費	59,880	事業コスト	1,493,726			
	事業費内訳	国庫支出金	368,000	県支出金	0	地方債	397,300	その他特財	0	一般財源
H29年度	決算	事業費	762,363	人件費	59,111	事業コスト	821,474			
	事業費内訳	国庫支出金	106,920	県支出金	0	地方債	132,700	その他特財	0	一般財源

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	33.1%	33.0%	-0.1%
27) 公共交通			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
提言	日本社会全体が高齢化していく中で、車や自転車の運転ができない人たちをどのようにサポートしていくのかは市の役割が大きいと思われるので、費用対効果だけで計れない事業として、改善すべき課題をよく検討し、よりよい事業とされたい。また、周辺市町村との広域連携についてもさらに検討を進められたい。	

取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくバスについては、時刻表の見直しや停留所の新設などを行うとともに、バスロケーションシステム及び交通系ICカードの導入により、利用促進を図った。</li> <li>・つくタクについては、普及広報活動を継続するとともに、キャンセル待ちサービスや1時間複数運行、使用車両の増車、予約センターの強化等を実施し、利用促進を図った。</li> <li>・上河原崎・中西地区スマートIC設置に向けては、国やNEXCO東日本関係機関と打合せやアンケート調査を実施するとともに、継続的に国土交通大臣への要望活動や地元説明会、地区協議会等を行った。</li> <li>・つくばエクスプレスの東京延伸を含めた利便性の向上に関する要望活動を継続的に実施した。</li> <li>・自転車安全利用に向け、各種イベントにおいて普及啓発活動を実施した。また、自転車のまちつくば周知及びPRのため、WEBサイトを開設した。</li> <li>・緊急地方道整備事業については、酒丸上沢線や葛城北線、台町萱丸線等において2139.1mを整備した。</li> <li>・地域公共交通網形成計画進行管理業務として、市民アンケートを実施し計画の点検・評価を行った。また、近隣自治体との公共交通の広域連携に向けた調査を実施した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくバス、つくタクともに利便性向上施策を実施したことにより、利用者が増加した。</li> <li>・上河原崎・中西スマートIC設置事業に関しては、国から新規事業化に選定され、連結許可が下りたことからNEXCO東日本と基本協定、工事細目協定、年度契約等を締結した。</li> <li>・つくばエクスプレスの東京駅延伸については、国の交通政策審議会において、国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクトとして示された。</li> <li>・自転車の安全利用及び利用促進活動を実施したことにより、幅広い年齢層に安全利用等に関する啓発ができた。</li> <li>・緊急地方道整備事業においては、市の骨格を形成する幹線道路網の整備を進めることで、安全で円滑な交通の確保や防災機能の向上を図ることができた。</li> <li>・地域公共交通網形成計画進行管理業務については、実施した各種調査において、交通体系及びサービスの検証、検討をすることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくバス及びつくタク運行については、利用者は増加傾向にあるが、高齢化の進行やまちづくりの進展に則した公共交通網の構築を図っていく必要がある。</li> <li>・スマートIC設置については、平成33年度末の供用開始を目指し、事業を進める必要がある。</li> <li>・つくばエクスプレスの東京延伸については、沿線自治体（都区、県）との合意形成を図る必要がある。</li> <li>・自転車の安全利用を促進するためには、安全な走行空間を計画的に確保する必要がある。</li> <li>・緊急地方道整備事業を引き続き進めるにあたっては、地権者との用地交渉が難航し、工事着手が遅滞することが想定される。</li> </ul>
改善目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくバス、つくタクを主として市内公共交通の改編を行い、更なる利便性の向上を図る。</li> <li>・スマートIC設置については、毎年度、NEXCO東日本と工事細目協定に基づく年度契約の早期締結を図るとともに、用地細目協定を締結し、用地測量・用地交渉・用地買収を進める。</li> <li>・つくばエクスプレスの東京延伸については、国会議員で組織するTX議連と連携を密にし、沿線自治体の合意形成を図る。</li> <li>・自転車の安全利用促進については、道路管理者及び関係部署との連絡調整を密にし、情報共有を図り、つくばにあった歩行者・自転車・クルマが共生できる自転車走行空間を形成する。</li> <li>・緊急地方道整備にあたっては、地権者に対し、道路整備の必要性を丁寧に説明しながら用地交渉を進める。</li> </ul>

#### 自己評価（所管部署評価）

自己評価記述	<p>各事業とも概ね成果を上げており、引き続き費用対効果等の向上に努めながら、目標達成に向け施策を推進していく。</p> <p>今後は、1次交通、2次交通、自転車等の移手段と道路交通網の調和を図りながら、更なる利便性向上を目指していく。</p>
--------	--